

vol.01
2022
しまねまちなび

19地19色。

チーム島根県を構成するメンバー、19の市町村たち。
同じ県とはいえ、その個性はバラバラで文化も方言も違うし知らないこともたくさんあります。
【しまねまちなび】はそんな19のメンバーたちの個性を引き出して応援するマネージャー的な存在。
【十九】では、わたしたちが発掘してきた普段あまりスポットのあたらない魅力を独断と偏見と、愛情をもって紹介します。
役に立つかはさておき、知られていない19の個性を楽しんでいただけますように。

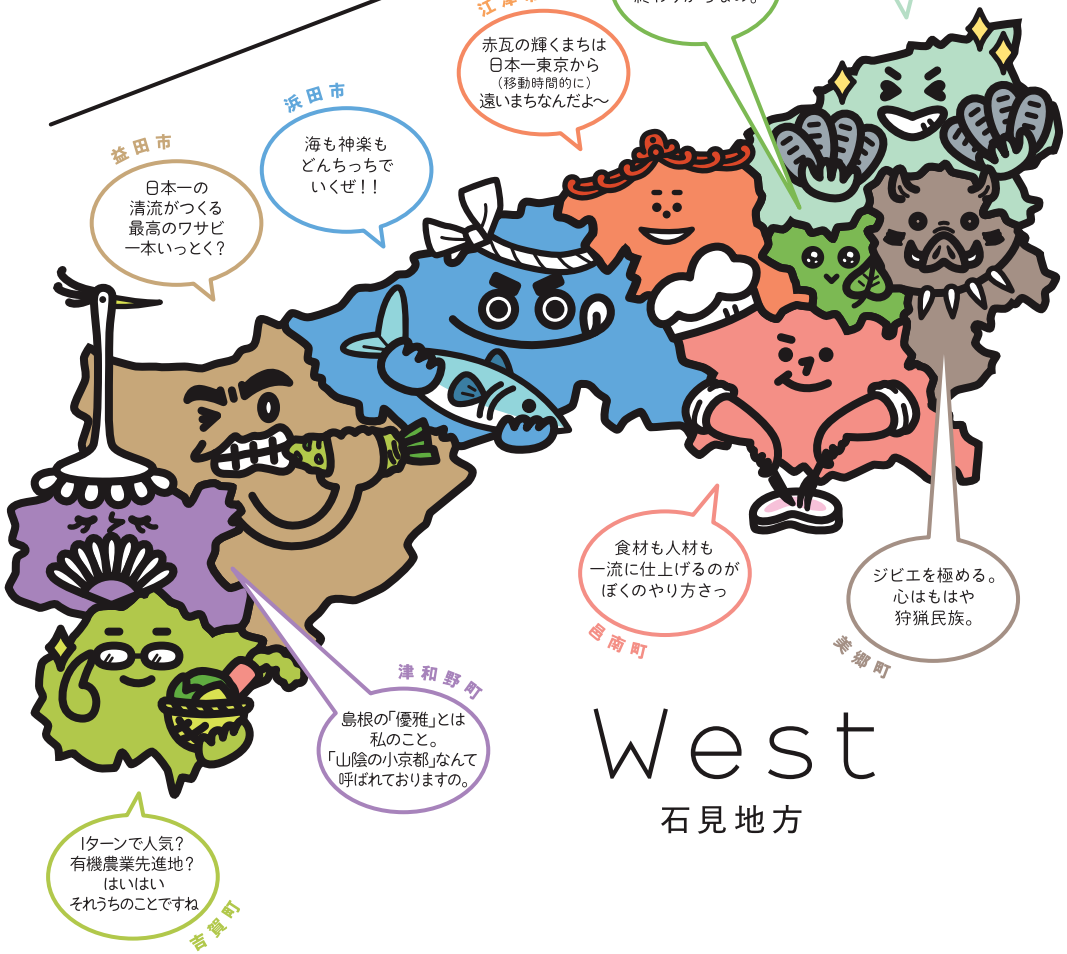
East
出雲地方



Oki
隠岐地方



West
石見地方



19地19色。 01
偏愛探訪 05
偏な食べ物 09
畏怖ってる。 13
幻の広浜鉄道 11
なんやかんやヤっぱり三瓶山っていいよね。 19
気になる、奇になる。癖祭 21
現地潜入レポート お大師参り 25
現地潜入レポート 雲樹寺 26
孤高に生きる一本桜 27
ココドコ受賞作品マップ 29
「ココドコ番外編 いや…本気で ココドコ!?クイズ 33
グッとくる話 ゾッとする話 37
地味旅 39
棚田 43
絶対、人と被らない土産 45



19

偏愛探訪



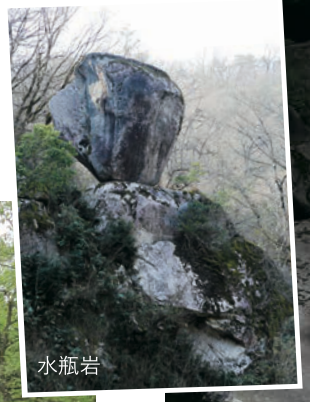
とにかく名前のパンチ力がすごい、黒雲母花崗岩が削られたV字の渓谷。国の名勝・天然記念物に指定。鬼が舌を震わせるほど恐ろしい場所?! ではなく、なんとも切ない恋のお話が由来(諸説あり)。ワニ(今で言うサメ)がこの谷に暮らす姫に恋をして、日本海から夜な夜な斐伊川を泳いで会いに来たものの、ワニは嫌われ川を巨岩でせき止められてしまった。ワニが慕う…ワニガシタウ…オニノシタブルイ。見所は昔の水瓶を指す『水瓶岩(はんどいわ)』。なんで落ちないの!?と感じる絶妙なバランスで、およそ30mの高さに独立して立っている。

1 「鬼の舌震(おにのしたぶるい)」

偏愛point ♡ 名前の癖

info 仁多郡奥出雲町三成1417-6 🅿あり

ゾクゾクして偏愛が高まる!



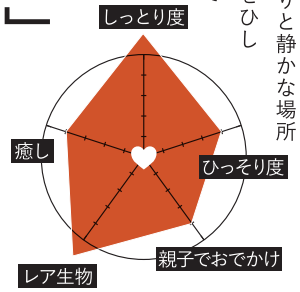
水瓶岩



2 「赤名湿地性植物群落」

偏愛point ♡ しっとりしてる

県下最大のハンノキ林と珍しい湿地性植物が広がる湿地。ハンノキは水分の多い平坦地に生息するため、古来からその群生地は水田にされた。自生地は県内でも数カ所しかなく、最も規模が大きいのがここ。さらに野生ランや食虫植物、幻のトンボと言われるハッチョウトンボなど貴重な生き物がわんさか。まさに「生ける自然の博物館」!ひっそりと静かな場所だけれど、自然の生命力をひしひしと感じる。島根県で最初に自然保全地域に指定されている。



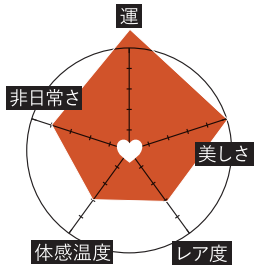
info 飯石郡飯南町下赤名
🅿乗用車10台、大型車:2台



3 偏愛point♡自然のいたずら

「雲海（おほちぼんち）」（於保知盆地）

朝5時。邑南町で出会った標高540メートルの山頂から見えるある現象。町を包み隠すように広がる美しい霧の海原『雲海』だ。昼と夜との気温差が大きい日の早朝だけに出会える貴重なもの、と聞き、その儚く美しい自然のベールを名残惜しく眺めていたけれど、7時、8時…高度は下がったもののまだ消えない。むしろ全然まだ雲海。10時過ぎたくらいにようやく消えた。町の人に聞いたところ「でっぱなしですよ」とのこと。けれど実は、10時くらいまで雲海が出ているのは天候が安定している条件のよい時なんだとか。運が良ければ「雲海」に、もっと運が良ければ「でっぱなし雲海」に出会えるかも。

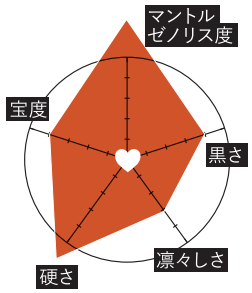


info 於保知盆地展望台
邑智郡邑南町矢上 Pあり

4 偏愛point♡こんなところに宝島

「黒島」

隠岐の島町大久にある黒島は、ただの岩礁ではなくマントルゼノリスでできた、ジオパーク的価値の非常に高い島。約330万年前、地下百数十キロから数十キロにあるマントル層（現代の技術ではまだ掘り進めることができない）の岩石を、マグマが取り込んで噴火してできた玄武岩の島で、島全体がキラキラ輝いているそうな。そのキラキラの正体こそがマントルゼノリス！島全体がマントルゼノリス！何も知らなければただの島。ジオパーク的価値を知った後はロマンの詰まった宝の島。ぜひ価値を知った後、レッツ・マントルゼノリス！



info 黒島（黒島展望台）
隠岐郡隠岐の島町大久 Pあり

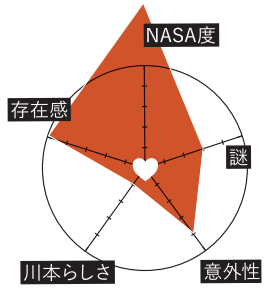


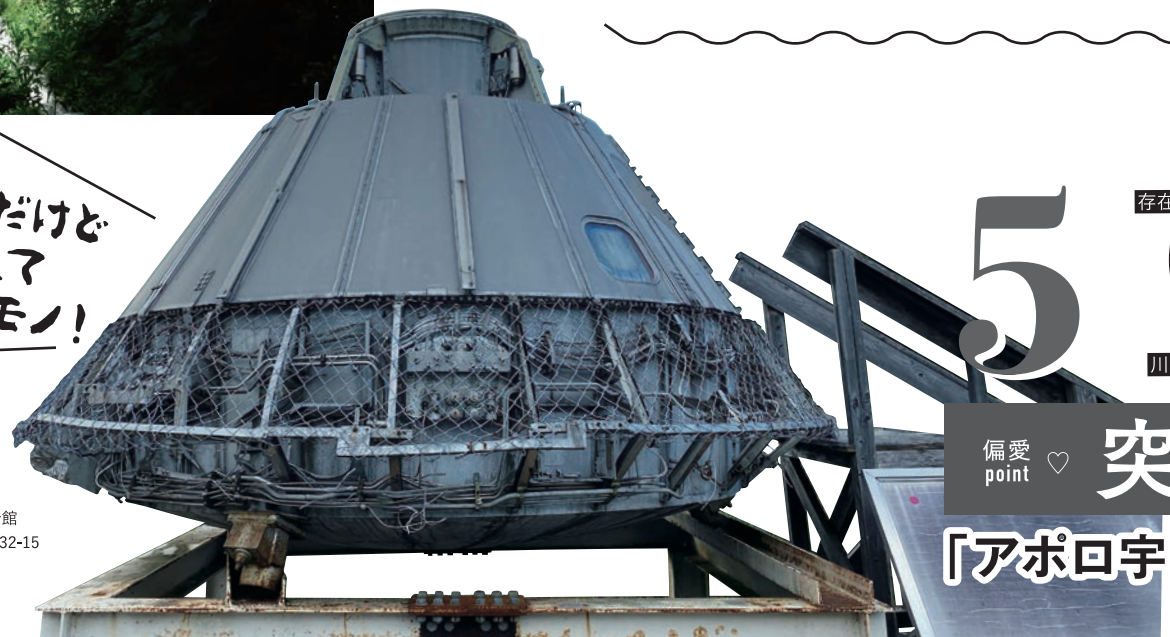


5 偏愛point♡突然のSF

「アポロ宇宙船スカイラブ3号」

川本町"悠邑ふるさと会館"駐車場のロータリーに、ひっそりとソレは佇んでいた。"アポロ宇宙船スカイラブ3号"。遊具でも、おもちゃでも、不法投棄物でもない、正真正銘の宇宙船。"アポロ計画"から"スカイラブ計画"に名称変更したNASAの、3回目の有人ミッションとして3人を宇宙へ運んだ、名誉ある宇宙ステーション…が、何故ここに。しかもケースに入れられているわけでもなく野ざらし状態。あまりにも唐突すぎて、逆に見逃してしまいそうになる。NASAと川本町のつながりは謎に包まれたままだ。





野ざらしだけど
こう見えて
ホンモノ！

info 悠邑ふるさと会館
邑智郡川本町川本332-15
Pあり

知らない地へ行く醍醐味はなんといっても“食”。
おいしいのはもちろん「なんだこれは？」な食べ物を
独断と偏見でピックアップ。

偏な食べ物

ウチワエビ



見た目で損をするタイプ。

伊勢海老のように美味しいといわれるエビ。ただ、とにかくひらべったく、見た目のインパクト大。殻をうちわ代わりに使えば、きっと生臭いことでしょう。

（販売元）浜田市など
県西部でよく食べられる。

えごまビール



川本町得意技！なんでもえごまコラボ！

漠頭型枕モチーフのラベルが可愛い。えごまエキスが入っていることで、ボケが予防できそうな気がしなくもない。

（販売元）石見麦酒

竹島カレー



攻めのカレーは、意外と甘口！

五箇創生館食堂の名物メニュー「竹島海鮮カレー」。サザエとイカがコロンと入ってて やや甘口。旗は隠岐の島町マーク。

（販売元）五箇創生館食堂

おからっとちゃん



グルテン0、罪悪感0。

やる気のない顔が愛くるしい、島根県産のとれたて大豆をたっぷり60%入れたおからチップス。軽い食感がやみつきになるグルテンフリーのおやつ。

（販売元）株式会社 大東農産加工場

三栄油菓手造り 硬いかりんとう



もはや、歯を折りにきてない？

小麦粉、三温糖、サラダ油のみでつくられる、素朴な味わい。しかも無添加。そしてとにかく硬い。幼児の歯固めにも使われるほど。歯に自信がない方は要注意！　（販売元）三栄油菓

未成線からのメッセージ

一時は
負の遺産と
言われた今福線。
しかし
当時の姿のまま
未完成であることに
価値が見出され
地域のシンボルに
なりつつある。

幻の広浜鉄道

コウヒンテツドウ



「幻」と呼ばれる理由











山間の風景の中に突如現れる謎の柱。かつて広島県と浜田市とを結ぶ広浜鉄道の一部として着工した今福線の遺構だ。昭和8年、下府駅から石見今福駅までが着工されたが、太平洋戦争のため中断。戦後、別に今福線新線として工事が再開されたが、国鉄の慢性的赤字経営の影響によりまた中断。新線が完成していれば浜田から広島までが55分とされた夢の道は、線路が敷かれることなく〝幻の広浜鉄道〟として幕を閉じた。一時は〝負の遺産〟と言われた今福線。しかし当時の姿のまま未完成であることに価値が見出され、地域のシンボルになりつつある。







8	7	6
5	4	
3	2	1

① 橋脚群：旧線最長の橋梁。全国的にも珍しい円形。／② 幻の三番線：JR山陰本線の下府駅今福線が通るはずだった幻の三番線。／③ 5連アーチ橋：現在県道として使用。〝選奨土木遺産〟認定。／④ 第一下府川橋梁・4連アーチ橋：新旧未成線の橋梁が同時に見られる全国的にめずらしい遺構。／⑤ 4連アーチ橋：工事中止時のままの状態を留めた場所。選奨土木遺産のプレートが設置。／⑥ 今福第四トンネル：唯一歩いて通ることができる貴重なトンネル。他は立入禁止。／⑦ おろち泣き橋：不思議な音が聞こえる４連の橋。おろちが今福線が開通しないことをなげいて泣いているといわれる。／⑧ 美しい渓谷美に溶け込む４連橋。

info 浜田市観光交流課　Tel.0855-25-9531





畏怖（いふ）ってる。

神聖な場所は美しく、空気が違い、そして少し恐い。
人間と人間じゃないものとの境界がぼやける、
〝恐い〟と〝尊い〟が押し寄せる場所へ――。

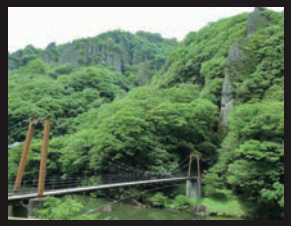


「五百羅漢（ごひゃくらかん）がぞろり」

立久恵峡（たちくえきょう）

国の名勝・天然記念物で県立自然公園にも指定される、約2㎞の渓谷。神戸川の清流に沿って奇岩怪石が、まるで杭を立てられたかのように並ぶことから〝立杭〟と呼ばれ、名前の由来となった。約2.6㎞の遊歩道が整備され散策が楽しめる。「自然に浸りたいけど山登りはヘビー、散策くらいがベスト」な気分のときに丁度いい。

かつては山岳信仰の修験道として栄えた立久恵峡。立久恵山霊光寺の参道の階段を降りると、ガラッと空気が変わる。〝五百羅漢〟の登場だ。宗教宗派を超えた石仏が安置され、その数は千体超。今にも朽ち果ててしまいそうな無数のお地蔵様がぎっしりと並んでおられる。そのお姿には、人びとの祈り、畏れ…、何とも表現しがたい〝圧倒的な静の力〟が漂う。



出雲市乙立町立久恵　Pあり

大元神楽

おおもとかぐら

人と神のコミュニケーション。はじまりの神楽の、禁断の儀。

田畑での収穫を終えた晩秋の夜。神様への感謝をこめてはじまった〝大元神楽〟。現代の神楽のまさに大元。石見地方古来の神楽の形を継承している貴重なもので、特に6年に一度行われる江津市桜江町の大元神楽は国の重要無形民俗文化財にも指定されている。それぞれの土地の神に捧げられるという性格上、その地を離れて演ずることはできず、長い歴史がありながら他の地域ではあまり知られていない神秘性が特徴だ。

そしてその神秘性をもっとも高めているのが〝神がかり〟といわれる神のお告げをいただく〝託宣の儀〟。明治時代に入ると神職の舞も神がかりも禁じられたが、山間地域は目が届きにくかったため密かに受け継がれてきた。〝神がかり〟はいつでもあるというわけではなく、舞手の気持ちが一つになったとき、(おこることも)あるそうだ。その言葉にやけにリアルさを感じる。〝託宣の儀〟のある神楽は近年ほとんどなく、昭和54年になると今度は逆にその価値が見直された。

多くの神楽で見られるような氏子の舞だけではなく、神社の神職達によって舞われる神事舞。演目数は実に30以上!!時間にして9時間30分にも及ぶ長丁場だ。〝大元神楽伝承館〟には、演目についての説明やお面、衣装の展示、一番の特徴である演目〝綱貫〟の模型などもある。

華やかなエンターテイメントとしての神楽は見たことがあるかもしれない。けれどここにあるのは、神様をお迎えし、楽しんでいただき、感謝する、まさにその土地の暮らしや人の思いから自然と湧き上がってきたような日本古来の神楽の姿だ。





大元神楽伝承館
江津市桜江町市山481
市山コミュニティ交流センター内
🅿あり







多鳩神社

たばとじんじゃ

江津市二宮町神主イ307



八咫烏（やたがらす）がやってくる!?

騙されたのでは?と不安になってしまう道のりの先に、その神社はひっそりと佇む。主祭神・積羽八重事代主命（ツミハヤエコトシロヌシノミコト＝エビス様）。石見の国を開拓したエビス様の終焉の地と伝わる。静けさと澄んだ空気。〝神気に満ちた〟という表現がぴったりな場所だ。

多鳩神社の特徴はなんといっても〝八咫烏〟の伝説。八咫烏とは、日本神話に登場する導きの神で、太陽の化身ともいわれる3足脚のカラス。日本サッカー協会のシンボルマークでもあり、サッカー日本代表の必勝祈願も行われる。八咫烏は「導く力」をもつと云われ、自分の道を切り開くことや、海上安全、縁結び等に御利益があるとされる。本殿の軒下には木製の〝神饌台〟が。八咫烏をお招きするために備え付けられたものなのだそう。



須我神社 奥宮

すがじんじゃ おくのみや

（須我神社本殿）

雲南市大東町須賀

父・須佐之男命が家族と過ごすひととき

〝八雲立つ出雲八重垣つまごみに八重垣つくる其の八重垣を〟

「何回八重垣と言うんだろう」とツッコみたくなるこの歌は〝須我神社〟で詠まれた日本初の和歌。さらに〝出雲〟は出雲國の由来と云われる。今回注目したのは〝奥宮〟。本殿の背後にそびえる山の中腹にあり、本殿と両方を参拝する〝二宮詣り〟という信仰がある。動きやすい服装と靴がベスト。登ると父・須佐之男命、母・奇稲田比売命、子・清之湯山主三名狭漏彦八島野命の、親子三人の岩座が仲良く鎮座している。澄んだ空気と静けさ。言葉にし難い力に圧倒される。〝須賀〟の地名は須佐之男命が「我が御心清々し」と言ったことに由来しているそう。激しく同意。



琴引山神社

ことびきやまじんじゃ

飯石郡 飯南町佐見

語彙力が崩壊するパワースポット。

旧暦の10月〝神在月〟。出雲の国では神様の会議が行われる。飯南町では昔から、神々はまず〝琴引山〟の山頂に降り、神戸川を日本海へと下り稲佐の浜へ向かうと伝えられている。琴引山という名前の由来は、この山の岩窟に大国主命が奏でた琴が納められているとされるところにある。〝琴引山神社〟の両側に巨岩がそびえ立つ参道は〝産道〟を表すとされ、地域では子どもの〝疳の虫・ひきつけ（ちりけと言う）〟封じや安産祈願の地として親しまれている。登っていくとまず現れる〝大神岩〟は琴が納められていると伝わる場所のひとつ。その岩の先に〝琴引山神社〟登場。力強さと優しさと…ふさわしい表現が見つからない。そう、こういう場所を人は「パワースポット」と呼ぶのだろう。

Mt.SANBE

なんやかんや やっぱり 三瓶山 って いいよね。





三瓶バーガー



三瓶自然館サヒメル

みんなの人気者、三瓶山。
その魅力は重々承知しているけれど
改めて見てもやっぱりいい山。
ビジュアル、エンターテイメント、満足感
どれをとっても◎

国立公園三瓶山は、中国地方で一番若い火山。何度かの噴火活動で形成された峰々は、男三瓶山、女三瓶山、子三瓶山、孫三瓶山と、家族のように名がつけられ、火口である【室の内】をぐるっと囲むように連なっている。三瓶山はこの家族の総称。それもあってか三瓶山の山並みは、なんだかやわらかでやさしく、峰同士の会話がきこえてきそうな気がする。

登山口も山頂もいろいろで、登山玄人向けルートから、初心者でも気軽に楽しめるルート、登山口と下山口を変えたりと、経験・体力・気分に合わせていろいろな人が楽しめる。登山はもちろん、見晴らし抜群のリフトや、三瓶バーガー、三瓶温泉、ふもとではキャンプ、ピクニック、サイクリング…と、様々な楽しみ方がある。

北側のふもと【北の原】には、三瓶山を中心とした島根県の自然を紹介する自然系博物館【三瓶自然館サヒメル】が。大地の成り立ち、島根の山や森・海、そこに生きる動植物の生態、化石やはく製、標本など、紹介される種類の多さに圧倒される。館内のあちらこちらに置いてある双眼鏡や顕微鏡で小さな世界を、ビジュアルドームではプラネタリウムで迫力満点の天体の世界をみることができる。

『三瓶小豆原埋没林公園』には、火山灰に埋もれていた縄文時代の巨木、"地底の森"がそのままの状態で展示される。巨木の根元には当時の土壌も残っており、直立したままの木の根はこの古土壌のなかに根を張っているそう。世界的にも貴重といわれる神秘の森だ。

土、山、空、顕微鏡から天体、縄文から現代。時間、空間、地球から宇宙、体験できることの振り幅とスケールが大きくここだけで大満足！の三瓶山。島根県民自慢の"自画自山"だ。

気になる、奇になる。

KUSE 癖 MATSURI 祭





地域の祭りには、歴史やら人の思いやら風習やら、その土地ごとの“癖”みたいなものが凝縮されていておもしろい。神々の国島根には、ちょっと珍しい神事もたくさん。突っ込まずにはいられないお祭りパラダイスへようこそ。

大足半（おおあしなこ）

深い意味？そんなのなくても楽しい！



約3m重さ340kgの特大ぞうりを引きながら、馬路の町並みを100人が練り歩く。その後、乙見神社で神楽が奉納される。なぜぞうり、なぜ特大。さぞ深い意味や歴史背景があるのだろうと調べたところ、町の特産のわらじを全国に売り出すべく“わらじ町長”の異名を取る当時の町長が25年前につくった祭りだった。歴史も根拠も思いのほか浅い！けれどベテランと若手が入り乱れワイワイ楽しむ姿に、祭りのあるべき姿がつまっている。

※あしなこは足半(あしなか)の方言。かかとの部分がない短めのわらぞうりのこと。

【地域】大田市仁摩町馬路地区　【時期】10月13日

おもっつぁん

はじまりは、博打の腹いせ。



直径８０センチ重さ130kgもの大鏡餅を担ぎ、上半身裸の男たちが町を練り歩く。五穀豊穣、家内安全を祈る1200年も昔から行われる正月行事だ。祭りの由来は、真言宗高祖寺の御本尊大日如来様が、同じ真言宗の星上寺(島根県八雲村)へ出掛けて行った際に博打をしたが大負け。腹いせに本堂にあった大餅を持ち帰ったことから。ファンキーすぎるぞ！如来様！

【地域】松江市秋鹿町　【時期】２月上旬

やまんば祭り

怖くないよ、やさしいよ。



やまんばといえば、山奥に棲み“主食＝人間”のおそろしい存在。けれどこの地区の民話では、田植えの手伝いや子どものお世話をする、とても優しいおばあちゃん。愛されるがあまりこの地区は“やまんば達の里”を名乗っている。民話をもとにした祭では、5 つの自治会が趣向を凝らした巨大なやまんばの山車が、町中を練り歩く。言ってみればやまんばしばりのねぶた祭り。盆踊りも催され、子ども、大人、やまんば、みんなで楽しめる祭りだ。

【地域】邑南町 矢上地区　【時期】お盆

ガッチ祭り

活気とトラウマをありがとう。



赤い布で覆われた頭。お面らしきもので隠した顔。ガッチと呼ばれる集団が「ホエー！」と奇声を発しながら、藁でつくられた棒“スッポ”で、地面や道ゆく人の尻を手当りしだい叩く。大人でもインパクト大、子どもには軽いトラウマレベル。一番恐れられているのが鼻が崩れた面をつけた“鼻ぺちゃ”と呼ばれる最速のガッチ。頭に浮かぶのは「狂気」の二文字だが、日御碕神社に合祀された日吉神社が、年に一回元の地へ里帰りする由緒正しき祭りだ。

【地域】松江市島根町野波　【時期】10月23日

狐の失せ物探し行列と鍵奉納



【地域】津和野町 太皷谷稲成神社周辺
【時期】2月始めの午の日(太皷谷稲成神社の初午大祭※の日に合わせて開催)
※初午大祭:全国の稲荷(稲成)神社でのみ行われる由緒あるお祭

お面の下は、誰だろう…?

江戸時代、津和野城の倉庫番が蔵の鍵を無くし、殿様から「7日以内に見つけられなかったら切腹ね」と言われた。倉庫番は稲荷神社にお参りし、ギリギリ7日目に鍵を発見。これを聞いたお殿様が「願いが成就する稲荷様だ」と言ったことから、太皷谷稲成神社は、稲"成"神社となった。夫婦狐、約10名の従者狐、幼稚園児狐の行列が、町を通り太皷谷稲成神社に鍵を奉納する。通り沿いには狐面が飾られ、なんとも神秘的な雰囲気だ。

雨乞神事



【地域】吉賀町田野原 水源地 【時期】6月第3週日曜

守るだけが伝統じゃない!進化系祭り。

高津川の水源地"大蛇ヶ池"の伝説に基づいた祭り。かけ声とともに藁でつくられた約12mもの龍を担いだふんどしの集団が池にかけ込む。かつて蔵木田野原地区で行われていた雨乞神事を、人々の記憶の断片を拾い集め、平成4年に地元の有志が復活させた。龍は水中を暴れまわったのち、樹齢1,000年の古代杉へ巻き付いてフィニッシュ!すべてぶっつけ本番。生まれ変わったからこそ、自由な変化を楽しめる祭りだ。

萬歳楽(まんざいらく)



【地域】吉賀町柿木 下須地区 【時期】12月上旬

盛られる前に隠せ!隠される前に盛れ!

室町時代から約500年続くと云われる神事。五穀豊穣と地域の安泰を祈願して、高さ8寸のお椀に高々と盛られたごはんを男たちが食らう。食べ終わったら腹いっぱいでも「飯は無ぁのか〜」とおかわりを催促するのがマナー。そうはいっても腹いっぱい。そこから"食べたくない男vs食べさせたい女"の壮絶なお椀争奪戦"椀かくし"がスタートする。股間に隠す強者もいたという。ご飯をよそわれたら最後、全部食べきらなければ神への冒涜になるそうだ。

あご石神事



【地域】海士町中ノ島 宇受賀命神社 【時期】元日

神だって、恋は真剣勝負!

宇受賀命(ウズカミコト)は比奈麻治比賣命(ヒナマジヒメノミコト)に結婚を申し込むが玉砕。諦めず求愛の手紙を送り続けると「大山神社の神様※と力比べをして勝った方と結婚します」とチャンス到来。石を投げ合う力比べの結果、宇受賀命が勝利した。"あご石神事"は、あご(トビウオ)の形に似た石を24個拾ってきて元旦当日に奉納。この時、前年の石を「大漁!大漁!」と叫びながら海の方角に投げ豊作豊漁を願う。なぜ石を投げるかは不明だが、恋の石投げ比べと関連あり?

※大山神社の神様とは、西ノ島の大山祇命のことで、一説には焼火山(たくひやま)の神様とも言われています。

墨付けとんど



【地域】松江市美保関町片江 【時期】1月6日以降の最初の日曜日

黒ければ黒いほど、いいことあるぞ!

トンド焼きが各地で簡略化される中、美保関町片江地区には昔ながらのスタイルが残る。さらに、同時に魔除けのおまじない「墨付祭」も開催されて大賑わいだ。かつては女性たちが風呂場やかまどの煤を集めて墨をつくっていたが、近年は木炭の粉末や墨汁に代わっている。墨は人の顔に手当り次第ぬりつけられ、人々はたちまち真黒になるが、墨をつけられるとその1年間は風邪をひかず、海難にも遭わぬとされ、漁業の町では根強い信仰を持っている。

でやんな祭



【地域】西ノ島町別府 耳浦神社 【時期】年2回(2・10月)

知られていない。というより、見てはいけない。

「でやんなよ〜、でやんなよ〜」不気味な放送が流れると、島民はみな家に入り明かりを消す。神主と宮係5人で構成される一行が〈耳浦神社〉へ向かい、前回仕込んだ酒を神へ捧げ、新たに酒を仕込むという神事だ。祭りの間、祝詞以外は無言。「(祭に)出逢うなよ、(外に)出るなよ」の意とされ、祭りの一行を見ると"目が潰れる"と云われる。理由は島民にも謎が多く、文献も写真もほとんどない。興味をそそられる一方で「半端に踏み込んではいけない」と頭の中で警鐘が鳴る気がする。

現地潜入レポート

お大師参り

（開催地）
知夫村 各地区のお堂
（時期）
旧暦3月21日

霊場巡り×食べ歩き！
島が賑わう特別な日

行ってきたのは島根県内唯一の村、隠岐郡知夫村の【お大師参り】。弘法大師（空海）の命日である旧暦の3月21日に、老若男女、信仰に関係なく、村民だれもが島の8地区のお堂やお地蔵さんを廻ってお参りする。しかも各地区で地元の女性たちからご馳走が振る舞われ、食べ終えると次の地区へ移動、という流れだ。

言うなれば【コンパクト霊場巡り＋手作りグルメ食べ歩き】のようなもの。このご馳走を楽しみに島を訪れる人もいる。各地区の女性たちは朝3時から、接待のおかずの仕込みを始めるそう。おかずを作る当番は1年毎に交代で、当番でない年には参列者側として参加できる。







ところ変わればおかずも変わる。サザエの炊き込みご飯のおにぎりなど、島ならではの食材をつかったメニューや煮しめなどはもちろん、お酒があったり、ホットサンドがあったり、コロッケがあったり、フルーツポンチがあったり。お酒や、持ち運べるようにラップにくるまれたおにぎりやワッフルまで。はっきり言ってお腹がはちきれそう。でも島の女性たちのあたたかい笑顔に、ついつい食べ過ぎてしまう。

船の出発までの3時間で、仁夫→大江→薄毛→多沢→郡→松養寺→来居→古海の8地区をなんとかコンプリート！島で守られ生き続けるやさしい風習と、島の人達のおもてなしで、心もお腹もいっぱいになった。



現地潜入レポート

雲樹寺（うんじゅじ）

安来市清井町281
Tel.0854-22-2875
8:30〜17:00
所要時間30分



GO！GO！住職

厄払いをお願いしに行くと、第一声に「え、清水寺ではなく？」と答えたのは、雲樹寺の38世住職を務める予定の、副住職醍醐靖幸さんだ。雲樹寺は1322年創建の臨済宗系の古刹。出雲地方では最古の禅寺の一つとして知られる。名僧【狐峰覚明】により開かれた。山門には、後醍醐天皇直筆と伝わる【天長雲樹興聖禅寺】と書かれた額が！四脚門や朝鮮銅鐘など多数の文化財を有する。また、ツツジ、サツキ、椿を始め花々が咲き誇り、ツツジ寺とも呼ばれる。

積極的に取り組んでいるのが、ｗｅｂサイトやＳＮＳを使った情報発信、寺ヨガ・写経会など周辺地域を巻き込んだイベントの開催だ。ＳＮＳでは副住職による、今日のお寺、副住職の野望、説法等が、軽快なノリとツッコミを交えつつ愛情たっぷりに発信される。（ちなみに投稿される副住職の写真は、結構な確率で頭に何かが乗っている。）さらに寺オリジナルのだるまや、ティーパックなどのグッズも作成している。アイデアと意欲、そしてその根底に地域への愛情があふれている。境内の修繕や寺宝の公開にも積極的に取り組み「寺の宝は地域の宝。地域の人に開いていきたい」と語る。

「人々から愛され、人々の助けになる存在になること。そんな雲樹寺を1000年先まで遺し続けていくこと。」が副住職の目標だそうだ。伝えたいことはいつの時代も変わらないけれど、時代が変わり人が変われば、その伝え方は柔軟に変わればいい。誰かの助けになるのなら、形式や伝統だけにしばられる必要はないのかもしれない。副住職のフレッシュな発想とニコニコの笑顔、頭にのせただるまを見て、あたたかい気持ちが湧き上がった。



浜田市三隅町

孤高に生きる一本桜







写真提供：浜田市教育委員会

浜田市三隅町矢原

三隅大平桜（みすみおおびらざくら）

樹齢 670 歳
幹周 6～7m
枝張り 20～30m

国の天然記念物。以前11本あった枝は、落雷や山火事によって4本に。地面に沿うかのように伸びる枝と、木が束になったような太い幹。とても1本の木とは思えない存在感と、いびつな美しさに圧倒される。所々に残る治療の跡でどれだけ大切にされてきたかが分かる。幹の一点にある穴をのぞくと、傷ついた部分から細い根が。"不定根"と呼ばれ、根が弱ると幹や枝の腐朽部分や損傷部付近から根を下し、栄養を補給しながら生きるのだそう。670年もの年月を生き抜く、強い生命力を垣間見れる。

浜田市三隅町向野田

海老谷桜（えびたにざくら）

樹齢 350 歳
幹周 3m
枝張り 14~19m

浜田市の文化財に指定され、何百年もの間生きた美しい桜は、ある日姿を消すことに。車が通ることで道路の下にある根が踏まれ数十年をかけて衰弱。ついに体を支えられず、平成20年4月1日、たくさんの花芽を付けたまま根元から折れ、谷へ倒れ落ちた。地域の方の落胆と悲しみは相当なものだったそう。すぐさま移植延命工事が実行された。移植先で数年花を咲かせるも、木の本体部分は次第に腐り撤去を余儀なくされた。けれど350歳の生命力は想像を超えていた。本体が腐ると同時に育った若芽が花をさかせ、また新たな歴史を刻みはじめている。浜田市は、海老谷桜を文化財指定から外すことなく保護している。

浜田市三隅町井川

井川の一本桜

樹齢 250 歳
幹周 2.7m
枝張り 11m

三隅の一本桜の中で最後に満開になると言われる桜。田んぼのあぜ道の向こう、山間の田園の中にたった一本佇む姿が愛くるしい。「その昔、山の斜面が崩壊してその先端がこの桜の木付近まで到達し、川はせきとめられ上流は沼と化した。土砂を取り除いた時一本の桜が根付いていた」と案内に書かれていた。なんという強運桜！遮るものは何もなく、陽の光も独り占め。焦らず、のんびり、ゆっくりと、開花のときを待っているかのよう。開花の頃には、ライトアップされ水がはられた田んぼに逆さ桜も楽しめる。

しまね19市町村 インスタフォトコン

コエドコ

受賞作品マップ

19市町村の新たな魅力を発見するため、県民でも思わず「ここどこ？」となるような、撮るも見るも楽しい濃い味の1枚を募集しました。投稿作品数9,855の中から各市町村に選定していただきました。

受賞作品 19

投稿作品数 9,855

大田市

@mrlonely783

さんべ縄文の森ミュージアム内
根株展示室

松江市

@nori_sina_haru

マリンパーク多古鼻

出雲市

@sunao_h

北神立橋の近くにある
「井上（いあげ）橋」と呼ばれる沈下橋

江津市

@lovesickmiyu

江の川河口





@glasses.mam217

吉田町を流れる川

安来市



@masaaki_shimana

布部ダム（白椿大橋）

奥出雲町



@0848yu___._._

鬼の舌震「鬼の試刀岩」



宇賀のメド岩



屋那の松原入り口の近くの船着場



見送る島の人たち
（「フェリーしらしま」から）



古海地区のお堂前



太鼓谷稲成神社参道途中の「おきつねさま」



衣毘須神社



青浦橋梁
（JR山陰本線「岡見駅」と「鎌手駅」の間）



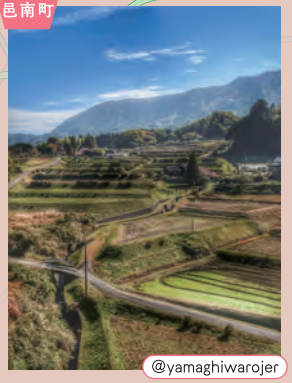
大井谷の棚田



江の川（摘坂トンネル付近）



田園風景（三原地区）



田園風景（矢上地区）

しまね19市町村 インスタフォトコン

ココドコ

受賞作品マップ

ココドコ 番外編

全スタッフが首をかしげた「いや…本気でココドコ!?」クイズ

応募総数9855にも及んだインスタフォトコン【ココドコ】。受賞は逃したものの「いや、これほんとにどこ!?」とスタッフを楽しませた写真をご紹介。あなたはいくつ分かるかな？

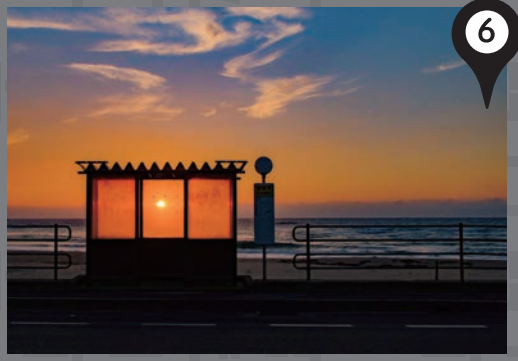
















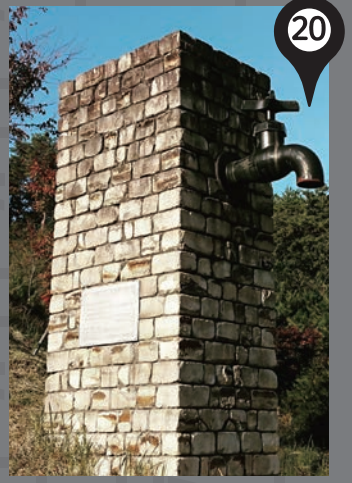


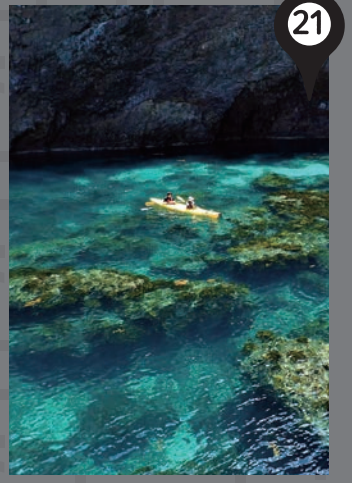










答え

1 安来市｜清水寺 稲荷神社
@longchie

2 隠岐の島町中村｜かぶら杉
@mksjfx

3 雲南市｜トロッコ列車（木次線）
@takashi522

4 海士町｜菱浦港出口付近　三郎岩「太郎・次郎・三郎」
@non87top

5 津和野町｜津和野奴行列
@shinkawabest

6 江津市｜石見海浜公園付近 東波子バス亭
@motoi.nsta

7 大田市｜三瓶町小屋原 三瓶不動尊滝場 不動尊
@lnao10n_in_a_h otsprings

8 邑南町｜貴船神社 鬼の伝説が伝わる奇岩
@yomihanabi

9 大田市｜迩幣姫神社の鳥居 浮布池
@koumin720

10 西ノ島町｜由良比女神社
@mk_hebana

11 川本町｜長江寺
@santomakoto

12 知夫村｜知夫里島、島津島にかかるお松橋
@merrychisato

13 飯南町｜大万木山 山頂のブナの木
@heijitsukacho

14 益田市｜道の駅 匹見峡の看板猫
@misa3237

15 美郷町｜美郷町湯抱 鴨山窯の蛙
@misatolife

16 松江市｜くにびきメッセ内 空中歩廊
@sonoshin.046

17 西ノ島町｜旧別府支所 岩野勝人作「MENTAL CHAIR X」
@nonno.s

18 江津市｜塩田海岸
@itoushoji

19 吉賀町｜高津川の水源公園内 大蛇ヶ池
@1kedadesu.pri me

20 奥出雲町｜たたらと刀剣館 安部安人作「コック95」
@shinkawabest

21 西ノ島町｜東国賀海岸
@nishinoshima_official

22 津和野町｜津和野町跡　三本松城 跡
@masaki_chiba

23 出雲市｜出雲縁結び空港
@sujin.1709

24 大田市｜静間町魚津 静之窟
@leicamera1







天国に一番近い里

邑南町上口羽

手づくりの天国

〝天国に一番近い里〟の案内サインが見えてから約2㎞、農道を進んで行くと突如その景色は現れた。色とりどりの美しい風景に「あれ、私死んだのかな？」と疑ってしまう。天国とはまさにここ、邑南町の川角（かいずみ）集落のことを言うと思う。

かつては30戸約100人が暮らしていたが、現在暮らすのは8戸13人。平均年齢80歳、全員が60歳超え。標高も高いことから住人自ら〝天国に一番近い里〟と言い始めたとか。

「このままでは集落がなくなってしまう。自分たちがどうにかしなければ。」

まずは62本の花桃を植えた。自分たちが生まれ育った土地。せっかくの耕作地も耕す人がいなければ、どんどん放棄地として寂しい風景になっていってしまう。

「新たな住民にきてほしいが、こんな風景では住みたいと思ってくれる人もいない。まずは美しい風景を作ろう。」

その想いから人の手でこつこつ植え続けた花桃の木は、なんと現在2000本にも及ぶ。草刈や剪定などを行い、大切に大切に。2000本も管理していくことは容易ではなさそうだが「当番制ではなく、気が付いて手が空いている人がやっている。決して無理せずに〝ボチボチ〟ね。年寄りばかりだからね。」と集落の人々はのんびり語る。

天国に一番近い里

高齢者ばかりという自虐的な意味合いも含むこのキャッチフレーズ。けれどここには、現状を悲観するだけでなく、自分たちにできることを、楽しみながら「ボチボチ」続ける、人生の先輩方の力強い姿が。そしてその気持ちに応えるかのように咲き誇る花桃たちをみて、なんだか喝を入れてもらったような気持ちになった。



グッとくる話

ソッとする話





人柱がうんだ風習

松江市

【人柱とは】神の加護を得たり、穢れを払うために、生きた人間を犠牲にする、いわゆる生贄の思想。築城や困難な大工事にまつわる人柱伝説は全国的にも多い。事実の証明は難しいとされ、あくまでも〝言い伝え〟の域のものが多い中、島根県には県民周知の人柱伝説があり、そこに由来する風習も。もし自分や、自分の大切な人が…と想像するだけでもおそろしい。

二杯目のお茶

大橋川にかかる橋の中で、松江城下で最も古い〝松江大橋〟。堀尾吉晴の命により、築城のための資材を運ぶために架けられた。しかし工事は難航し「翌日の一番最初に橋を渡った、マチのない袴をはいた男を人柱にしよう（諸説あり）」との声が上がる。運悪く条件を満たしてしまったのが足軽の源助だった。源助は有無も言わず箱に押し込められ、橋脚の下に生きたまま埋められたと云う。その後橋は無事に完成し、中央の橋脚は〝源助柱〟と呼ばれるようになった。

源助は運命の朝、お茶を一杯飲んで出かけようとしたところ、妻に「もう一杯飲んでゆっくりしたらどうですか」とすすめられるも「早く仕事に行かねば」と出かけたという。もう一杯飲んでいれば、人柱になることもなかったのか…それに由来してか、松江ではお茶を2杯飲む風習があるとされる。

盆踊らない

松江城築城の際にうまく積み上げられない石垣があり、城下で開催された盆踊り大会の中で、一番美しく踊りのうまい娘が攫われ生きたまま人柱にされた。その石垣は無事に積み上げることができたが、城下で盆踊りが行われると御城下に災いがあるとされ、いまでも松江城近くでは盆踊りは行われていない。

もう一度、この地をじっくり味わう旅へ。

地味旅 JIMI TRIP WEST

ところで、久喜・大林銀山

くき・おおばやし

歴史あり！ 価値あり！ 知名度なし！

「島根の銀山」といえば、大田市の石見銀山がまっさきに上がる。が、邑南町にも銀山があるのを知ってる人はいるだろうか？明治期には全国の銀山で第９位の産出量を誇った久喜大林銀山。遺構は当時からほぼ未整備で約1500カ所以上もの採掘跡が点在し、炉跡や煙道からなる製錬所跡、製錬後の鉱滓（こうさい）を捨てた“からみ原”も残る貴重な銀山だ。地域住民らが遺跡の保存や活用のために“久喜・大林銀山保全委員会”を結成。地道な活動により2021年ついに国の史跡に認定！それなのに…県民のほとんどが知らない、島根ナンバー2の銀山へ。

久喜・大林銀山：
邑智郡邑南町久喜

1 久喜・大林銀山資料館

久喜・大林銀山保全委員会が集会所の一室を資料館とし、銀山についての歴史や文化についての様々な資料を展示。地元ボランティアガイドによるわかりやすい解説つき！



2 久喜銀山2号間歩

他の間歩の水抜きの為に掘られた間歩だが、採掘の際に大鉱脈が発見され、久喜銀山は最盛期を迎えた。大鉱脈が発見されたとは思えないほど入口は小さい。



3 久喜製錬所跡

明治30年代に津和野の堀家が経営・操業した製錬所跡。溶鉱炉跡や焙焼炉跡、煙道など、貴重な遺構が残っている。ぱっと見はただの山。でもその存在価値はとっても濃厚。



4 カラミ原

製錬時に排出される鉱滓（こうさい）＝カラミの捨て場で、面積3,000㎡の大量のカラミが。何百年たった今でも大量に残っている。バケツ状に固まったカラミも！



5 久喜銀山まんじゅう

静間松月堂のオリジナル。国の史跡認定を祝してつくられた。銀や鉛をイメージした竹炭入り。



地味旅 JIMI TRIP EAST

1 出雲國意宇六社

単なる“神社めぐり”と思うなかれ。

はじまりは、出雲国風土記。意宇(おう)の由来は、国引きを終えた神が「おえ(終え)」の声とともに大地に杖を突き刺すと木が繁茂し“意宇の杜(おうのもり)”になったこと。古代出雲国の政治・文化の中心地であると云われ、文豪・小泉八雲は“神々の国の首都”と表現している。つまりすごい土地！松江観光の多くは近代以降の資源が注目されがちで、地元民にもあまり知られていないが、実は古代もすごい。というかかなりすごい。その意宇郡に鎮座する六つの神社が意宇六社。江戸時代の書物に「格別の社なれば一々心をとめて拝礼すべし」と記されるほど特別な存在。そこらへんの神社めぐりとは、意味・歴史・重み、すべてレベル違いなのだ。

有 六社のうち三社(神魂神社・眞名井神社・六所神社)が同じ二重亀甲に「有」の社紋。これは神在月の“十月”を表す。

熊野大社 くまのたいしゃ

出雲国一宮。古くは出雲大社と並んで出雲国の大社として崇敬された。大社と名の付く神社は出雲大社と熊野大社だけ。

松江市八雲町熊野2451



2 神魂神社 かもすじんじゃ

出雲大社より古く、現存する最古の大社造で国宝。出雲大社に描かれた八雲の図は雲が7つ。神魂神社に描かれた八雲の図は雲が9つ。出雲大社から飛んで来たのでは！？という説も。

松江市大庭町563



3 眞名井神社 まないじんじゃ

出雲國風土記に登場する4つの神名樋山(かんなびやま)の一つである茶臼山(ちゃうすやま)の中腹に鎮座。社有地内にある“天の眞名井の滝”は、古くから信仰の対象とされ、出雲国造の火継神事と新嘗祭には、この滝の水が使われる。

松江市山代町84



4 八重垣神社 やえがきじんじゃ

いわずとしれた縁結びの神社。スサノオノミコトとイナタヒメの新婚生活スタートのお社。鏡の池の恋占い、夫婦椿など、意宇六社の映え担当。

松江市佐草町227





5 六所神社 ろくしょじんじゃ

神社境内を含む神社裏手一帯が出雲国庁であったことが、昭和40年代以降の調査でわかった。律令時代には出雲国の総社。神在祭に集まる全国の神々は、まずここへお集まりになるとか。

松江市大草町496





6 揖夜神社 いやじんじゃ

黄泉の国の入り口といわれる黄泉比良坂の近くにあり、黄泉の国と縁の深い神社。イザナミノミコトを祀る。神座が左から右に向かっていて出雲大社と反対であることが特徴。

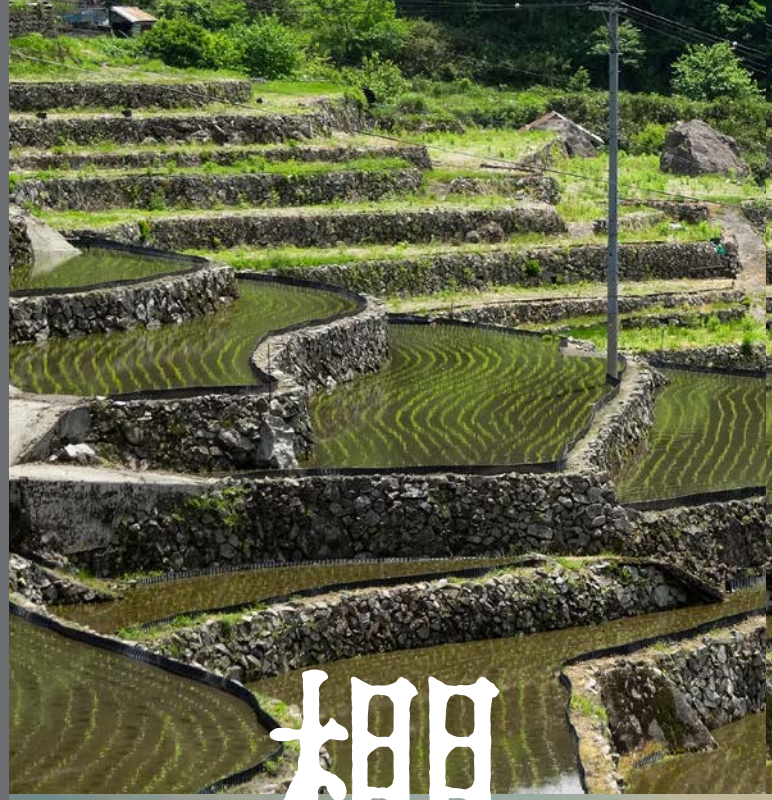
松江市東出雲町揖屋2229



「日本の棚田百選」に島根県内から選ばれる、
7市町村7地区の棚田の中から紹介する、2つの棚田のストーリー。

美しい、だけでは守れない。

棚田









急峻な地形を活かし、狭い面積で細やかな米作りをする棚田。それゆえに大きな機械が入らず、手作業が必須のため量産ができない。さらに高齢化やそれに伴う従事者の減少などとあわせて、耕作放棄地が増えている。“時代の流れ”といってしまえば簡単で、淘汰されるものがあるのは仕方がない。古き良きものを、その地ではない人間がむやみに“守ってほしい”というのは、無責任なことでもある。けれど理屈では片付けられないのが人の想い。いつまでもこの美しい棚田の風景が見られることを、願わずにはいられない。

大井谷の棚田

吉賀町柿木村

（写真上段）

島根県最西端、鹿足郡吉賀町柿木村。およそ600年前に大内氏に仕えた三浦一族がこの地に入り、開拓したとされる棚田は、何度も積み直しや補修を重ね、室町時代から江戸時代にかけてつくられた。現在は約8ha、400枚を耕作している。

日当たりが良い南向きの斜面が、山に切り込むようにつくられた、棚田にベストな環境。人の手で、丁寧に大切に生かされているのが分かる美しい風景。日本の原風景でありながら、どこか異国の香りもするのはなぜだろう。棚田の美しさはもちろん、石見地方の左官職人が得意とした漆喰で飾る鏝絵が施された、民家の蔵も珍しい。

坂道を上り棚田を見渡す最上部へ。そこにあるのが「一助はんどう※」。これを見なければ、大井谷の棚田は語れない。干ばつの年に、ここに溜まったわずかな水が人々を助けたという逸話が残る。ここでは棚田を活かした地域づくりも勢力的にすすめられ、風景を守るための人々の強い意志を感じる。

※水瓶のこと

室谷の棚田

浜田市三隅町

（写真下段）

島根県浜田市三隅町、標高599mの大麻山の中腹に位置する棚田地帯。ここの棚田の多くは、石積みではなく土畦畔作り。かつて砂鉄を取るために行われた鉄穴流しの跡を農地へと再生させた、“流し込み田”だからなのだそう。

豊富な砂鉄を含む花崗岩と、炭焼きに適した山林があるこの地域では、古くからたたら製鉄が盛んに行われ、その結果、国内でも最大規模と言われる室谷の棚田が形成された。この地の水で炊かれたごはんの美味しさは格別。蛍も水が綺麗すぎて棲むことができないほどだとか。

しかし、少し横に目線を移してみると、手入れがされなくなった棚田が。放棄された棚田は景観を悪くするだけではなく、土砂崩れ等を起こす原因にもなるとされる。ご高齢のひとり暮らしのため、やむを得ず棚田を手放さなければならなくなった方が言った「私は米をつくってきたんじゃない。田んぼをつくってきたんだ。」という言葉が胸にささる。

絶対、人と被らない土産

KABU RANAI GIFT catalog

いい土産には、旅先らしさが凝縮されている。
現地度200%、そこでしか買えない貴重なお土産をご紹介。

01 雲子（うんこ）ちゃんキーホルダー

雲子ちゃん（うんこちゃん）

雲南市 | 光栄刺繍

雲南市の非公式キャラクター雲子ちゃんグッズ。雲南市の雲から生まれた10歳の妖精の子ども。見ているとなんか脱力してくる。



02 招き猫 たこのせくん

長浜人形

浜田市 | 島根の招き猫工房

「ご多幸（たこ）を招く」頭にたこをのせた、ちょっとめずらしい招き猫。縁起てんこ盛りな愛らしい姿に癒やされる。



03 玉鋼の煌めきピアス（大）

奥出雲町 | Mullein

たたら製鉄でしか生産できず、奥出雲から全国の刀匠のもとへ送られる貴重な“玉鋼”を使った手作りアクセサリー。無骨さと美しさの調和にうっとり。



04 山くじらストラップ

美郷町 | おおち山くじら

野生のイノシシの皮でつくるストラップ。大切な命が無駄にならないよう、自然環境に配慮した技術で地域のお母さん達が一針一針手縫いで仕上げている。



05 どじょうすくい名人 6点セット-DVD

安来市 | 安来節屋

3年連続日本一のどじょうすくい踊り名人が指導するDVDとCD、竹ザル、竹カゴ、豆絞り手ぬぐい、一文銭の鼻あてのコンプリートセット！これであなたもどじょうすくい名人！



06 「大丈夫」お守り

松江市 | 松江護國神社

出雲・隠岐出身の軍人を祀る松江護国神社の「大丈夫」お守り。このざっくり守られてる感じがすごくいい。不安になった時握りしめたい。



しまねまちなびの役目は、
島根県を構成する19市町村に
スポットを当てること。
わたしたちにしか
見えない、言えない
市町村の魅力を
たくさん知っています。

https://www.shimane19.net/

※本誌には、フォトコンテスト「ココドコ」へご応募いただいたみなさまの写真作品も使用させていただいております。

発　行　島根県市町村総合事務組合（しまねまちなび）　〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 島根県市町村振興センター　Tel.0852-60-0233

※本誌掲載の情報は2022年2月までに取材したものです。発行後、データなどが変更になっている場合もありますのであらかじめご了承ください

しまねまちなび
SHIMANE MACHI NAVI